

## 第1回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	令和7年3月28日(金) 10:15~11:50
開催場所	亀山市役所 3階 委員会室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長あいさつ</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 自己紹介</li> <li>4. 総合計画審議会について</li> <li>5. 会長・副会長選任</li> <li>6. 次期亀山市総合計画の策定について</li> <li>7. その他</li> </ol>
議 事	<p><b>1. 市長あいさつ</b></p> <p>【市長よりあいさつ】</p> <p>春本番を迎えたところであるが、大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。また、総合計画審議会委員を快くお引き受けいただき、重ねて感謝申し上げます。さらに今回、公募委員として応募いただいた方々には積極的に総合計画策定に参画いただき、感謝申し上げます。</p> <p>総合計画は市民生活に関する環境、福祉、産業、医療、教育などあらゆる分野にわたり、まちづくりの基本方針と中長期的な視点での政策の方向性を定めるものであり、まさに市の最上位計画となるものであります。</p> <p>平成17年に市町合併し、今年の1月11日で20年という節目を迎えました。この20年間も第1次・第2次総合計画のもとに様々な施策が展開されてきました。令和7年度は第2次総合計画の最終年度にあたり、令和8年度から始まる第3次総合計画を策定している最中であり、世の中が変化する中、これからも持続可能で、市民の皆様、だれもが安心して健やかに幸福を実感できるような、まちづくり・人づくりをしていくことが極めて大事でございます。課題やニーズ、様々な変化を見極め、将来展望を見定めて、ぜひとも今後の中長期の計画としてみなさまのご意見、市民のみなさんのお声をいただき、今後の歩みを定めて行くような計画を策定できればと願っています。</p> <p>これから一年間、お世話をおかけしますが、みなさまそれぞれのお立場、キャリア、経験、感性から、積極的に率直な意見をいただき、審議会での審議を進めていただければ大変ありがたいと考えています。一年間、何卒よろしくお願い致します。</p> <p><b>2. 委嘱状交付</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長より委員一人ずつに委嘱状を交付。</li> </ul> <p><b>3. 自己紹介</b></p> <p>(各委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自自己紹介</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席された委員の紹介、事務局紹介</li> <li>・委員15名中10名の出席により、会議が成立している旨報告</li> <li>・会議傍聴を認める旨説明、本日について、傍聴者は無し。</li> </ul>

#### 4. 総合計画審議会について

【事務局より資料説明】

質問なし

#### 5. 会長・副会長選任

事務局一任の声有り

【事務局より事務局案説明】

会長：埼玉大学基盤教育研究センター 教授 石阪督規委員

副会長：亀山商工会議所 会頭 川森浩司委員

(各委員)

・異議なし。

【会長就任あいさつ】

【副会長就任あいさつ】

#### 6. 次期亀山市総合計画の策定について

【事務局より資料説明】

(会長)

- ・最近では総合計画を作らない自治体もある中で、亀山市は作ると条例で決めている。ポイントは現代の課題を盛り込むことである。資料 17 ページの策定にあたっての視点では時代の潮流や外部環境の変化への対応として DX や GX に触れている。持続可能な社会を目指すことも視点の 1 つ目にあげられている。2 つ目は人口減少であり、亀山市は三重県の中では人口の減少は、さほどではないが、5 万人を切り、高齢者も増えており長期的に見ると厳しい。人口の安定的な定着や若い世代に入ってきてもらうにはどうしたら良いか。3 つ目のリニア中央新幹線については、第 3 次計画で具体化したい思いはお持ちだと思うが、混とんとしてきた。ただし交通インフラは亀山市として大きな課題のようである。
- ・第 2 次総合計画の後期計画 14、15 ページに市民意識の変化として、市民アンケート調査の結果が載っている。その中で①重要度が高く満足度の低いものが喫緊の課題となるのだが、「企業活動の活性化」と「働く場の充実」が最初にあげられており、鉄道・バス等の交通インフラがあげられている。一方、②重要度が高く満足度が高い項目を見ると、生活環境や子育て支援については比較的満足度が高く、亀山市は優秀だと評価されているようである。③は重要度・満足度共に低い項目で、まずは①を最優先に、次に③を、計画に具体的に盛り込んでいくことが求められるかと思う。
- ・14 ページのグラフに注目したい。定住意向が平成 28 年と令和 2 年を比較すると下がっている。また市民の幸福感はやや上がっているが、住みよさの評価は「どちらかと言えば住みやすい」まで含めると若干下がっている。つまり亀山市としては住みよさや幸福感は下がっていないが、一生ここに住みますか？とたずねられれば、「いいえ」と答える人が増えてきているというのは課題だろう。
- ・おそらく、こういった市民意識の分析を今回も行うようである。

(委員)

- ・まずは企業誘致、亀山へのコストコ出店も延びている。一つずつ課題をクリアにし、企業誘致を進めていただきたい。鉄道問題もあるが、名古屋から亀山、伊賀方面まで直通

運行している。

- ・私はいつも散歩で関駅を通るが、6時ごろのホームに以前は数人座っていたが今は誰も座っていない。乗合タクシー、バスの利便性をあげていただきたいなど、たくさんある。

(会長)

- ・経済活動、企業誘致は喫緊の課題だが、いろんな自治体が手をあげており、企業もメリットがなければ行かない。どのように誘致するかも課題である。
- ・交通も高齢者はもちろん、若者も車を持たない人が増えており、車がなければ生活できないところは、移住先として評価されない。コンパクトなまちで生活圏が成り立てば良いのだから、それも課題だろう。

(委員)

- ・第2次総合計画の策定時の状況が、よくわからないが、何をベースとしたのか。地方都市は生産力よりは、高齢者等への福利厚生を広く薄くやりたいという考え方だったのか、あるいは第1次産業の生産力をあげて行こうとしたのか、基本的な考え方はなんだったのか。

(事務局)

- ・第2次総合計画開始は平成29年4月であり、社会情勢の変化や本市の課題を整理した。それまでの人口増加傾向から、減少を抑えたい、現状の人口で保ちたいとしていた。将来都市像「緑の健都かめやま」の考え方にあるものが、本市の地域に根差した自然・歴史・産業の調和を図る中で、まちと市民が、心身ともに健やかな過ごせる健康な状態でありたいとした。
- ・鉄道を活かした都市の形成を図っていききたい、どう交通利便性を活かしていくかといったところが都市形成の観点であった。
- ・また、人口減少も想定されており、介護・福祉面だけでなく、医療、健康、生きがい、住まい、交通、商業と包括的にとらえた福祉施策も捉えられた。まちの活力については、内陸型工業都市として、さらに地域として成長していききたい、テクノヒルズ構想等多くの土地があり、企業誘致や観光によって都市活力を向上させたいという視点もあった。
- ・亀山市は子育てに優しいまちとしての自負があり、子育て支援や教育環境の充実をさらに図っていききたい視点は当然あった。基本方針はベースとして地域を高め、ともにまちづくりをしていききたいとした。そういった課題を整理して、計画を策定した。

(会長)

- ・調和やバランスというキーワードも出たが、亀山市は総合力で勝負する。県下では子育て支援が有名だが、企業誘致や産業活性化、自然も盛んである。生活者の視点でも様々な支援をしていることもわかる。しかし課題として出ているのは、やはり企業誘致や交通インフラの問題である。市だけでどうなるものでもないが、例えば駅周辺の活性化や駅の利活用、観光・集客にどう結び付けるか、具体的な事業として考えられる。どこに特化するのではなく、いろんなことを入れるのも計画の目的であり、むしろ漏れがないことが大事だと思う。

(委員)

- ・今の亀山市を見ていると、それほど危機感はないが、高齢化社会で福祉のコストが上がり、インフラのコストも上がる。そうなるとう行政がなりたつのか。夕張は日本一行政コストが高いまちだと自虐的になっているが、そうならないように、適正なコストを見込み財政計画を立てなければならない。

(会長)

- ・次回以降にそういった財政データや人口推計データなどを資料としてコンパクトにまとめ、提供してほしい。

(事務局)

- ・合併以降、人口がどう推移してきたか、情報提供する。財政状況も財政構造改革に取り組んでいる現状を情報提供する。

(委員)

- ・関宿 47 番目の宿場町となっているが、鈴鹿関跡（すすかのせきあと）の一部が 4 年前に文化庁から国史跡の指定を受けた。たくさんの来訪客に来ていただいているが、関宿でしか得られないものや 1 番のものがなく、通過し、とどまることがない。
- ・指定を受けたので国、文化庁から補助金をもらって、関宿の裏道を拓げる、用水路を作るなどの火災対策、観光バスの通過しやすいよう道路整備を進めていただきたい。

(会長)

- ・観光に関しては、客数よりも経済効果で見た方がよいと最近は言われる。人は訪れていても消費はせず、ごみだけ落として帰るようでは困る。各施策において指標を設定すると思うが、ここにどんな目標数値を書くかも考えて行きたい。

(委員)

- ・令和 2 年の市民アンケート結果から、時が経ち、行政の皆さんはかなりがんばられていると思う。その後、総合計画策定に向けてアンケートもしているのだろうか。会社組織では一所懸命目標を立て、計画するのだが、やってみて結果がダメならば、同じような計画ではなく、違う計画を立てていかなければならない。しっかり結果をみて、計画に反映していただきたい。

(事務局)

- ・アンケート調査は昨年度行った。この 3 月にも行っている。経年変化など傾向についてはまたお示しする。

(会長)

- ・数値として結果が出ているところは良いが、第 2 次総合計画の中で課題として残ったものは検証しなければならない。調査結果の提供をお願いする

(委員)

- ・多様な市民や世代に意見を聴かれているのは良い取組だと思う。このアンケートやヒアリング内容は我々も見られるのだろうか。大阪で計画に関わった時に、防災に関するアンケートを見たが、防災イベントに集まった人に「防災に関心があるか」と聞いて、その結果を、市民は防災意識が高いとして扱っていたという誤った事例を見た。アンケートやヒアリングの内容や対象をみなさんと一緒に見て行きたいと思う。

(事務局)

- ・様々な形式で市民のみなさまの意見を聴いている。今後の諮問に向けて、情報を審議会でお示ししていく。

(会長)

- ・資料まとめ次第、提供いただいて、みなさんと内容を精査していきたい。今日もたくさんの資料を提供いただいた。各自持ち帰り、よく見て頂いて次回以降ご意見をいただきたい。

## 7. その他

【事務局より今後の説明】

- ・次回、令和 7 年 5 月 21 日（水）14：00 から開催予定。

以上